

“船橋市エコカレッジ”がありました

勝股政雄(船橋市)

日 時：2019年11月6日(水) 13時～15時30分 天気：晴

場 所：千葉県立船橋県民の森（船橋市）

参加者：24名

担当指導員：塚原晃子 林信子 田島正子 梁川まさよ 横尾裕巳 勝股政雄

船橋市環境政策課では、市内に広がる海・低地・台地の豊かな自然のしくみや人との関わりを学ぶとともに、自らも人に教えることが出来るようになることを目指してエコカレッジを、今年度から試行として実施することになりました。かねてより市では市民大学校が開かれており、そのマイスター学科のカリキュラムの一部としてエコカレッジを合同で実施することになりました。一回目は、「干潟の自然」と題してふなばし三番瀬環境学習館で10月に実施し、今回はその二回目で、「台地の自然」をテーマとして県民の森で実施しました。

この日はあたたかな陽ざしが注ぎ、自然散策には快適な陽気となりました。上を見ると、イヌシデやコナラが少し色づき始めていて、秋を感じる事が出来ました。オープニングで6名の指導員を紹介され、その後3班に分かれ、指導員が2名ずつ付いて出発しました。

参加者の皆さんは、普段市民大学校で歴史や産業などについて月4回のペースで学んでおられる方々です。この日は、県民の森の自然に触れ楽しんでもらうのですが、私たち指導員は、参加者の皆さんの学びに対する意欲を強く感じました。

太く立派に育っているスギやヒノキの下を気持ちよく歩きました。しばらく歩くと広場に出ます。そこには、自然樹形の見事なトチノキが立っています。トチノキの枝ぶりや葉の形、スギ・ヒノキとの違いを見つけながら行くと、ジョロウグモが大きな網を張っていました。参加者の皆さんにクモになったつもりで網を張る作業を考えてもらいました。雌のジョロウグモは、厳しい冬が来る前に卵を産んで子孫を残すという大仕事をして命が尽きることなどを話すと、皆さん食い入るように網とクモを見つめていました。そのあと、イチョウやシラカシやコナラのドングリが足の踏み場もないほど落ちているのを見て歓声をあげ、野ウサギの糞を見つけては手に取って虫眼鏡でのぞきました。

最後にキャンプ場の避難棟に入って、座学を行いました。田島さんが、パワーポイントを使って、船橋の土地の成り立ちやそこに生きる魅力ある動物や植物についてわかりやすく説明しました。別れる時の皆さんの明るい表情を見て、お手伝いが出来てよかったと思いました。



イチョウの木の下でお話し…



土地の成り立ちや動植物の説明